

## 消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

### 【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	水難救助活動(要救助確保)時の船舶との衝突危険
3. 体験した事例の中心的要素	<p>夜間、増水により流れが速い河川において、意識なく流されている要救助者の救助に向かった救助者が、入水位置から40m、岸から20mの位置で要救助者を確保した際、救助を行うべく他機関の船舶が接近してきたため危険を感じ、大声で自らの存在を知らせ船舶は左旋回し回避した。</p> <p>救助者は、サーフェイスドライスーツ・ヘルメット・ゴーグル・シュノーケル・フィン・救命浮環を装備し、確保ロープを着けていた。岸からはHIDライトで照明作業を行い、隊長は拡声器で救助者及び船舶に接近を知らせていたが聞こえなかった。</p>
4. 体験した事例の原因・理由	<p>接近船舶は他機関から救助に来た船舶であり、救助活動実施場所を把握しておらず、緊急通信体制が確保されていなかった。</p> <p>船舶から確保に向かっている救助者が見えにくい状況であった。</p> <p>予測以上の流れのため入水位置から救出ポイントまでの間が離れてしまい、指揮者との距離が長くなった。</p>

### 【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。
------------------	--------------

### 【体験した事例について】

1. 発生日時	平成22年8月3日 午前1時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：川幅約40m、流れの速い河川
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷しそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	重傷の怪我をしていた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	激突、(機器等)巻き込まれ、はさまれ
7. 事例体験時の活動	救助現場活動中期、[ ]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	人命検索・救出
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[30]歳、勤続年数[12]年、現場経験年数[10]年、階級[消防司令補] 同様の活動[数年に1度程度]、任務[隊員]
○当事者B	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ] 同様の活動[ ]、任務[ ]
○当事者C	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ] 同様の活動[ ]、任務[ ]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	要救助者	意識無く、うつ伏せで流されていた	流れは2m/S
経過2	当事者A	泳いで要救助者の救助に向かった	
経過3	他機関の船舶	要救助者の救助のため接近してきた	
経過4	当事者A	大声で船舶に自分の存在を知らせた	
経過5	他機関の船舶	救助隊員の存在に気づき左旋回し回避した	
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思えるか？
- ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

たまたま、事故にならなかった。 その他：隊員の声が船舶操縦者に届いた

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

隊員の存在を知らせる方法(装備等)が不十分であった。 他機関の活動部隊と連絡し合える方法がなかった。
---

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

